

授業科目(ナンバリング)		人権と平和 (QB227)		担当教員 担当形態		木村 勝彦 単独			
教員免許状取得のための選択の別	① 中学校：選択 ② 高等学校：選択	単位数	2単位	開講年次	2年	展開方法	講義	開設時期	後期
科目	・教科又は教職に関する科目								
各科目に含めることが必要な事項									
授業のねらい								アクティブラーニングの類型	
「人権と平和」とは、今日の民主的教育の根幹に位置する主題である。この授業では、教育において「人権と平和」が本質的な課題であることを理解し、今日における人権問題および平和問題を、具体的な教育課題として認識し得るようになることを到達目標とする。								⑥ ⑩	
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法		評価比率	
専門力	人権問題および平和問題の歴史と現状とについて、的確に説明することができる。					・定期試験		30%	
情報収集、分析力	人権および平和を主題とする授業計画を立て、実施することができる。					・定期試験		10%	
コミュニケーション力	人権を尊重し、平和を希求することが教育にとっていかに重要であるかについて、主体的な意見を提示することができる。					・課題レポート ・授業参加		10% 10%	
協働・課題解決力	自らの専攻する学問分野の課題に関連づけて、人権尊重と平和希求をめぐる具体的な課題の解決に寄与することができる。					・課題レポート ・授業参加		10% 10%	
多様性理解力	現代社会にとって重要な課題である人権と平和について、その実現のために克服すべき多様な困難があることを理解することができる。					・定期試験 ・課題レポート		10% 10%	
出席						受験要件			
合計						100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明									
評価は定期試験 50%、課題レポート 30%、授業態度・授業参加 20%の配分で行う。定期試験は筆記により行い、人権問題および平和問題の歴史と現状に関する適切な説明と理解度を評価基準とする。課題レポートは教師から与えられた課題への取り組み方と内容、授業態度・授業参加はレポート提出状況によって評価する。									
授業の概要									
この授業では、講義内容をまとめたプリントを毎回配布し、重要な語句や関連する映像資料等をパワーポイントによって提示しながら解説する。また授業の最初には、課題レポートの解答を示し、内容に関する解説を行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。									
教科書・参考書									
教科書：特に指定しない。 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：好井裕明編『排除と差別の社会学』有斐閣									
授業外における学修及び学生に期待すること									
「人権と平和」に関する問題意識は、教職を目指す者にとって最も重要で不可欠である。講義のなかで示される人権問題・平和問題をめぐるさまざまな事例に関心をもって主体的に授業に臨み、書物や新聞等によって現代社会の状況に関して幅広く情報を得るように努めることを期待する。教職課程履修の受講生諸君には、常にも増して意欲的かつ真摯な受講態度を要求する。授業中の私語や理由のない遅刻・途中退回は許さない。									

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	授業全体の導入として、日本の民主主義教育の根幹が「人権教育」と「平和教育」であることを概説する。	日本の民主主義教育に関する整理・復習 差別の概念の予習
2	差別とは何か	人間社会のうちには、さまざまな理由による差別が存在してきたことを理解する。	差別の概念に関する整理・復習 同和問題の予習
3	同和問題(1)	人権教育の主要な領域の一つとして同和問題が存在することを考察する。	同和問題に関する整理・復習 古代・中世被差別民の予習
4	同和問題(2)	古代から中世までの日本の歴史におけるさまざまな被差別民の問題について概説する。	古代・中世被差別民に関する整理・復習 近世の身分制度の予習
5	同和問題(3)	近世の封建制度にもとづく身分制度の確立と、被差別部落の形成について概説する。	近世の身分制度に関する整理・復習 近代の部落解放運動の予習
6	同和問題(4)	近代日本における被差別部落状況と、部落解放運動の展開について概説する。	近代の部落解放運動に関する整理・復習 戦後の同和対策の予習
7	同和問題(5)	第二次世界大戦後の同和対策と人権擁護の問題を概説し、人権教育における同和問題の意義を考察する。	戦後の同和対策に関する整理・復習 異域・異民族問題の予習
8	さまざまな社会的マイノリティ(1)	社会的マイノリティに対するマジョリティの側の差別という問題を、日本の異域・異民族問題を通して考察する。	日本の異域・異民族問題に関する整理・復習 障がい者差別の予習
9	さまざまな社会的マイノリティ(2)	障がい者や特定の病気に罹った人に対する偏見・差別と、その背後の優生主義的な思想について考察する。	障がい者に関する整理・復習 差別の基本構造の予習
10	さまざまな社会的マイノリティ(3)	社会に存在する多様な差別の基本構造を明らかにし、それを克服する上での教育の重要性について考察する。	差別の基本構造に関する整理・復習 人権思想史の予習
11	人権思想史と国際問題としての人権	人権思想の歴史を概観した上で、今日もなお世界に存在する「重大な人権侵害」を国際問題として考察する。	人権思想史と「重大な人権侵害」に関する整理・復習 20世紀の民族紛争の予習
12	平和教育の視点	20世紀の民族自覚運動とその歴史的背景を概観し、現代における国際紛争の起源と経緯について考察する。	民族自覚運動と国際紛争に関する整理・復習 戦争被害・戦争加害の予習
13	戦争被害者と戦争加害者	戦争においては、当事者が被害者でもあれば加害者でもあるという状況が生まれることを歴史的に概説する。	戦争被害と戦争加害に関する整理・復習 原子爆弾による惨禍の予習
14	原子爆弾と平和教育の行方	「ヒロシマ・ナガサキ」が戦争反対と平和希求の思想的根拠であることを、平和教育の問題として考察する。	原子爆弾による惨禍と平和教育に関する整理・復習 人権・平和の意義の予習
15	まとめ	授業全体を振り返り、「人権教育」と「平和教育」の現代的意義について考察する。	講義全体についての振り返りと整理
16	定期試験		